

人形劇団赤いりんご主宰

菊屋敏子

Toshiko KIKUYA

「いつも元気やね」「なんでそんなに元気なん?」「人前で笑われているからかな」  
今号ご紹介するのは、街に笑顔を作る人、人呼んで大阪狭山の笑芸人、菊屋敏子さんです。



早速菊屋敏子さん(以後菊屋さんと呼びます)の出演する大阪狭山市菜穂木のファンズガーデンを訪ねました。子ども達のクリスマス会で数々の楽しい催し物がありました。歌や楽器の演奏が終わってよいよ人形劇団赤いりんごの人形劇が始まります。手作りの舞台装置に手作りの人形、黒子で人形を操るのは菊屋さん初め団員たち2名、菊屋さんとで3名です。菊屋さんはこの劇団の代表で脚本・演出・音楽・声の出演全てを演じます。この日の演目は現代版兎と亀「ペットの家出」です。大きな声で台詞をしゃべり、間でカセットで音楽を入れ、面白おかしく人形を操りと全くの重労働です。会場は若い親子連れとおじいちゃんおばあちゃん。子ども達は人形の動きに一喜一憂。終って舞台装置の裏から出てきて挨拶する菊屋さんの顔は赤く上気していて、これが一座の名前の由緒かなと納得。拍手する大人も子どもも大にここに。

菊屋さんが人形劇に心引かれたのは30才も過ぎた頃、大阪狭山市の公民館で開かれた親子人形劇入門講座修了生の発表公演でした。これこそ親子で楽しめる演劇形式だと感じて、人形劇団「赤いりんご」の立ち上げに参加入団して公民館で稽古を続け、公民館祭や文化祭で上演。次々に活動が広がり、近隣の幼稚園・保育所・子供会、福祉施設への出演が増え、その頃劇団代表に推され活動も全国的に広がっていきました。長野県飯田市での人形劇フェスティバル全国大会、国際花と緑の博覧会、国民文化祭ちば等に連続して出演。その名を上げてNHKテレビでも紹介されるようになったのです。しかし菊屋さんのバイタリティは止ま



ることを知らず、「プリンプリンチエッカーズ」なるパルンアートチームを結成。各種催事に参加、更に桂春団治一門の桂蝶太に師事し、落語の稽古を始め、菊乃家りんごの芸名で狭山落語会に入会高座に上り、更に南京玉すだれと色物にも手を染め、落語の弟子菊乃家姫りんご、蜜りんご、りんごアメ3人で菊乃家笑女隊を結成。一端の芸人家業。そんな菊屋さんの裏の顔?実はこちらが表の顔なのか、ちよっとサブライズです。昭和57年から平成19

年まで近畿大学医学部精神神経科学教室教授秘書、その間精神保健士取得、老人性痴呆疾患センターソーシャルワーカーと精神カウンセリングのベテランなのです。こんなに多くの面を持つ菊屋さんとはどんな性格の人なのか人形劇団の団員さん達に聞いてみたら、一斉に合唱で返ってきたのは「可愛い人」でした。そこで本人に聞きました。全部まとめて何と呼ばれたいですか……暫く間があって「女優と呼んで」とポーズ。劇団員達の言葉、納得でした。そして一笑、「めざすは元気な大阪のスーパーおばあちゃんです。その為にもっともっと沢山の笑顔に会いに行きますのでしっかりと笑って下さい。笑うことは最高の健康サプリメントですよ!」まだまだ元気な菊屋さん、夢を抱いている間、人は老いないと云います。②

プロフィール

菊屋敏子(芸名・菊乃屋りんご)  
人形劇団赤いりんご主宰・精神保健福祉士  
主な活動歴  
人形劇フェスティバル全国大会(長野県飯田市)  
国際花と緑の博覧会(いちょう館)  
第6回国民文化祭ちば(千葉県松戸市)  
NHKテレビ(ワイド近畿いきみイタワ)出演  
大阪狭山市女性問題懇話会委員  
セルフカウンセリング講座講師  
「お父さん」のための子育て講座開催  
昭和60年 狭山町教育委員会文化功労賞受賞  
昭和61年 大阪府知事文化奨励賞受賞

